報告書

2026夏のボランティア体験事業



目次

01. 事業概要

02. 受入施設・団体

03. 参加者

04. 事前研修会

05. 体験活動の様子

06. 事後研修会

07. 施設懇談会

08. 今後の課題

01. 事業概要

2026夏のボランティア体験事業

■目的
生徒や学生がボランティア活動の実体験を通して、社会福祉について理解を深めると共に､新しい発見や「ともに生きていく」視点について考える機会や体験する場を提供することを目的とする。

■対象者
ボランティア活動に関心のある市内に在住もしくは市内の中学校、高等学校、大学に通う生徒及び学生で、高梁市内での活動を希望する方

※事業への参加を希望する方は、次の研修会に参加しなければなりません。

▼事前研修会
ボランティア活動を実践していく上での心構え及び活動先との日程調整を行います。

▼事後研修会
ボランティア活動をより有意義なものにするため、活動を通じての感動・成果・悩みなどを仲間たちと分かち合う反省会を行います。



02.

受入施設・団体



高齢分野

介護老人保健施設ゆうゆう村

高齢者総合福祉施設ちかのり

介護付有料老人ホームさくらの苑
デイサービス「はなみずき」

グループホームウェルネス津川

ひだまり苑

高梁市社会福祉協議会 川上デイサービスセンター



障害分野

NPO法人 発達支援ネットワーク つむぎ

たいようの丘

NPO法人 color



子ども分野

高梁市立高梁こども園

高梁中央こども園

おちあいこども園

高梁市立有漢こども園

高梁市立成羽こども園

高梁市立川上こども園

高梁市立備中保育園

富家学童保育



ボランティア団体

高梁市手話ボランティアの会

カフェ輪・和・話（わ・わ・わ）

順正DFKクラブ（順正ボランティアセンター）

通所ボランティアきらり（うかん気楽会）

カフェぷらっと

”やってみたい”から始める地域参加

夏休み宿題応援講座

03. 参加者

学校名	実参加者数（人）
高梁市立高梁中学校	42
高梁市立高梁東中学校	7
高梁市立高梁北中学校	7
高梁市立有漢学園	4
高梁市立成羽中学校	5
高梁市立川上中学校	2
岡山県立高梁高等学校	16
岡山県立高梁城南高等学校	5
その他	1
計	89

04. 事前研修会

■日時・場所
令和８年７月１１日（土）高梁総合福祉センター

■参加者
生徒：83名(中学生:64名、高校生19名)
施設・団体：16施設・7団体

■内容
2026夏のボランティア体験事業について
　✓ボランティアって何？
　✓活動をするときに大切なこと
　✓ボランティア体験記録ノートについて
活動調整会議





体験活動の様子



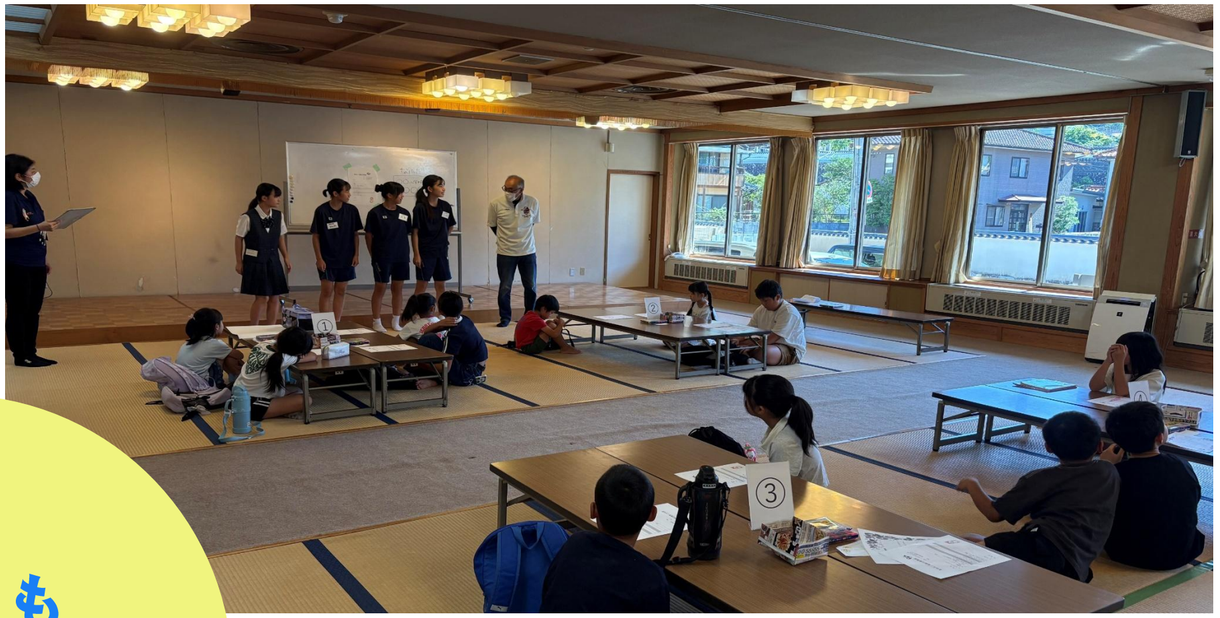


高齢・障害分野









子ども
団体分野





06. 事後研修会



それぞれ違う場所で体験をし
自分の経験を持ち寄って共有をしました！

■日時・場所
令和８年８月２２日（土）高梁総合福祉センター

■参加者
生徒：52名(中学生:44名、高校生8名)

■内容
1)グループ討議

①心に残ったこと・心が動いたこと　共通点

②自分の変化　共通点

③私たちにとって「ボランティア」とは

2)全体発表

3)修了証書授与

※　事前研修会、ボランティア活動、事後研修会すべてに参加した方のみ修了証を配布。

📌心に残ったこと心が動いたこと

・子どもたちが遊びに来てくれて嬉しかった
・できる事、分かる事が増えて嬉しい
・最初は緊張
・話しかけてくれてうれしかった
・一人一人に対応を変えているのが心に残っている。
・周りの人たちに慣れていけると達成感がある。
・寄り添うことができた。
・自分からいろいろな人たちに話すことができた。
・感謝の声掛け
・コミュニケーション
・楽しくコミュニケーションがとれたこと。
・子どもたちからはなしかけてくれたことが嬉しかった。
・人と関わったことで嬉しかったことが多かった。
・接し方で困ったことが多かった。
・ボランティア先の人と接することが楽しい。
・一緒にして楽しかったことがあった。
・一人一人に合わせた行動が大切
・自分から積極的に行動することが大切






📌自分の変化

・人との関わりが得意になった
・小さい事にも意識を向けるようになった
・自分から行動することができた。
・「やってあげる」ではなく、「やらせてもらう」。
・積極的に行動できるようになった。
・人と話すのが得意になった。
・先を読んで行動できるようになった。
・考えて行動
・協調性を大切にできた
・関わり方
・自分から話しかけれるようになった。
・活動先での言葉と話し方が変わった。
・積極的に交流することができた。
・できることが増えた。
・人との関わり方
・話すことが苦手だったけど活動を通して
色々な人と話せるようになった。

📌私たちにとって「ボランティア」とは

・人間関係が大切である。
・新しいものやことに気づくきっかけである。
・普段得られない経験をあたえてくれる場所である。
・人と人をつなぐきっかけである。
・人と社会の成長である。
・将来に近づくために、自分を少しずつ成長させてくれたり、
　思いやりを築いたり、たくさんの出会いがあるもの。
・いろんな年代の方と関われて自分の成長にもつながることである。
・新しく挑戦することで自分の成長や助け合いながら交流することの
　大切さを気づくことである。
・世代別の関わり方を知ることができる！！
・自分が成長でき、新しい発見を見つけることである。
・たくさんの人とつながる機会である。
・色々な人と関わって考えが成長でき、将来につながる活動である。

















07. 施設懇談会

■日時・場所
令和８年９月２日（土）高梁総合福祉センター

■出席施設・団体
12施設・2団体

■内容
1）2026夏のボランティア体験事業報告

2）グループ懇談（施設・団体意見交換）

受入施設・団体からのコメント（一部抜粋）

📌受け入れて感じたこと

- 明るく、元気いっぱいでスタッフのことを聞いたり、活動をしてくれた。利用者とのコミュニケーションは当初難しいということを言っていましたが、アドバイスも頭に入れながらでできていたと思う。全体的に好印象が多かったと思う。
- 素直、吸収力がある。今回のボランティアをきっかけにぜひまたボランティアで来たいと言ってくれる生徒もいた。
- こちらがお願いしたことは、やってくださっていたが、自主的にという面ではなかなかできなかったように思う。
- 利用者や入居者の方の側で一緒に作業をしてもらい、利用者の方も落ち着いて表情良く作業ができていた。
- 施設の利用者が普段とは違う表情で中学生ボランティアと接する様子がみられた。
- 人との関わりがあまり得意ではないのにがんばっていた。生徒さんも入所者も楽しんでいると感じられる時があったのは良かった。
- 自分の目標、大切にしたいことがしっかり頭に入って行動していた。笑顔がとてもかわいらしく、利用者さんも喜ばれていた。
- 活動日は生徒の希望で2～3日程度でしたが、その日数も休んでしまう学生さんは少し気になった。
- ボランティアのノートの反省では、「明日はこうしてみよう」など次回への意気込みを感じ、楽しみながら、ボランティアに参加してくれていると感じ、嬉しく思った。
- 友達と一緒のクラスでないと難しい生徒が増えた。
- パーソナルスペースが近い生徒が多い。
- 質問等を受け、積極的に取り組む姿がみられた。
- 全員積極的に仕事を進めてくれました。分からないことは、質問してくれ指示していた仕事以外にも進んで手伝ってくれた。

受入施設・団体からのコメント（一部抜粋）

📌 課題・工夫（受入で難しかったこと、活動内容で工夫したこと、もっとこうすればよかった点等）

- 学生側からしてみたいことなどもできたら良かったかなと思う。
- 2日間という短い間で体験していただいたので、目標が達成できたのかどうなのかということはあった。
- コミュニケーションということでは、もっと話せる場づくりが必要だったように思う。
- お昼休憩後、休憩の部屋まで迎えに行ったので、自分たちで戻ってもらうよう声掛けが必要だった。
- 全体でボランティア活動ができるように各階のフロアリーダーと連絡調整を行なった。
- 事前に職員間のミーティグをもっとして（生徒にどう動いてもらうか）おくとスムーズにできた部分もあったかと思う。
- 具体的な声掛け、接し方、遊び方の提示を常にサポートできなかったことは申し訳なかったと思います。
- 振り返りの時間を学生と作っているが、感じたことや聞きたいことがでてきにくい姿もあり、視覚的に整理を行なっても良かったと感じている。
- 学生さんの緊張をほぐすことがもっとできれば良かったと感じている。
- 子どもが昼寝をしている間にお手伝いしてもらいたいものを考え、用意しておいた。
- 昨年度、挨拶ができにくい子どもの姿が見られたので事前研修会の時にしっかり伝えた。
- 一つ一つ知らせ（教え）ないといけない状態だった。
- 人数制限なしにする。
- 今年度は、ボランティア担当職員を配置したので、担当への負担が少なかった。ボランティアの学生さんにとっては丁寧に関われたと思う。
- ノート記述時間を作った。
- 送り迎えの時間がご家庭のタイミングと合わず、待たせて申し訳なかった。

受入施設・団体からのコメント（一部抜粋）

📌 今後に向けて(どんな活動なら、中高生・大学生に参加してほしいか、社協に期待すること・要望等)

- 高齢者施設なので、人との関わりを学びたい。福祉に興味を持っている学生に参加してもらいたい。
- 事前研修会後の打合せのことを社協で事前研修会にきている時にしっかりすり合わせができる時間を設けてほしい。
- 介護という仕事に挑戦してもらい、貴重な人材だと思っている。
- 進路を決める時でもこのような場が必要だと思うのでよろしくお願いします。
- 今後同じように入所者や利用者の方と交流を目的に来ていただきたい。
- 夏祭り等のイベントに来てボランティアをして頂きたい。
- 利用者と生徒が話をしながらレクリエーションをしたり、その方に寄り添って話を聞いてあげる姿勢を職員も刺激を受けた。
- 今後も受け入れていきたい。
- 事後アンケートで大変だったこと、難しかったこと、困ったこと等をきいてもらえたらありがたい。
- 参加希望日は事前に知りたい。
- 子ども、大人の両方をしっかり関わる場面での参加を希望する。
- 参加者が少なくなってきていると感じるので、目的や学びなどを学生さんに知ってもらい参加者が増えてほしい。
- 夏休みを通して、何日希望かQRコードに入れてほしい。
- Googleフォームで日にちや連絡先等こちらもしてみようと思う。
- 参加学生全員のコメントがほしい。
- 事後研修会の日程かえるのはどうか。
- 参加される側からこちらへの要望があれば事前に知りたい。
- 今回のような受入ならば、これからも対応できると思う。

08. 今後の課題

1.事前研修会および活動調整方法の見直しと改善

- Googleフォーム等のツールを活用した運用へ移行を検討し、双方の負担を大きく軽減しつつ確実なスケジュール共有が可能な体制整備。
- 生徒側からの要望や、受け入れ側からの期待を事前に共有する仕組みづくり。

2.　事後研修会日時の再検討

- 生徒の参加状況を鑑み、より出席しやすい日程や時間設定への変更・調整を検討する。

3.　メッセージの全員回収と確実な配布

- ボランティア体験ノートや事後アンケートに記載された学生からのメッセージや感想は全員分を回収し、お世話になった各施設・団体へお届けする体制整備。

THANK YOU

２０２６夏のボランティア体験事業報告書

※2026夏のボランティア体験事業報告書は、ホームページにも掲載しています。
HP：http://www.takahashi-shakyo.org/

（発行）社会福祉法人高梁市社会福祉協議会
〒716-0029　高梁市向町21-3
TEL：0866-22-7243　　FAX：0866-22-0845
E-MAIL：yatosa@mx9.tiki.ne.jp